

福田ドクトリン記念プレート除幕式における挨拶

2018年10月1日
フィリピン・マニラホテル
福田 康夫

1 冒頭

フィリピン日本友好協会会長 フランシス・シー・ラウレル閣下、インドネシア日本友好協会会長 ギナンジャール・カルタサスミタ閣下、並びにご列席の皆様方、

●ただいま御紹介いただきました福田康夫です。

御挨拶に先立ち、今から約2週間前（9月15日）、フィリピン北部を台風（22号 オンポン）が襲い、多くの尊い命が失われ、また、多くの方々が行方不明になるなど、甚大な被害が発生しました。また9月28日に、インドネシアのスラウェシ地方でも地震と津波により、膨大な被害が発生しました。被災された多くの方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

●日本は、フィリピンやインドネシア同様に自然災害が頻発する国です。同じような環境にある私たちも、この度の災害に大変心を痛めています。

自然災害対策では、関係諸国間で様々な協力が行われていると思いますが、今後、一層緊密な連携が図られることを期待しております。

●さて、本日は、この伝統あるマニラホテルにおいて、私の父、福田赳夫が発表した「福田ドクトリン」のメモリアルプレートが設置される日に、お集まりいただいた皆様にご挨拶する光栄にあずかり、心から感謝いたします。

●先ほど、ラウレル閣下を始め、御当地の代表の方々の手により、プレートの除幕をしていただきました。その場には、この記念すべき特別な機会に立ち会うため、東京から私の兄弟、すなわち福田赳夫の息子や娘、そして孫たち、「福田ドクトリン」の文章作成に関わった谷野元中国大使、アジア研究の大庭教授、OB サミットに係わった杉浦元法務大臣、渥美女史、経団連の油木氏など、多くの方が日本から来て、メモリアルプレートの除幕式に参加し、フィリピンの友人とともに喜びを分かち合ってくれました。

●そして、今から約40年前、このマニラホテルにおいて「福田ドクトリン」を発表した当時の福田赳夫の姿に思いを馳せ、ひと時の感慨に耽ることができました。

●ここで、この記念プレートが出来る迄の経緯をお話します。

昨年7月、私は、福田ドクトリン40周年及びASEAN設立50周年に際し、比日協会より友好功労賞をいただく名誉に浴しました。その授賞式の折、ラウレル会長と私の間で、福田ドクトリン40周年を記念して、記念碑を建ててはどうかとのアイデアが生まれました。

●その後、関係者の間で何度も相談を重ね、この間、フィリピン大学にも大変ご協力をいただきました。最終的に、福田ドクトリンが発表された、このマニラホテル内にプレートを設置することが最も適切であるという結論に達し、マニラホテルのヤップ会長のご理解とご協力をいただいて、今日の除幕式に至りました。

●この日を迎えるに当たり、これまで長きにわたり尽力をいただいた、ラウレル会長を始めとする比日協会、フィリピン大学、マニラホテルの関係の皆様に改めて深い感謝を申し上げます。

●本年は、日ASEAN友好協力45周年に当たる記念すべき年です。

今日、日本とASEANは、互いの信頼関係を基礎に、幅広い分野でウィンウィンの関係を確立しています。私自身、東南アジア諸国を度々訪問し、心と心の触れ合う交流が行われている様子を至るところで見参りました。

●そのことは、この場にお集まりの皆様のように、日本との交流に携わってこられた多くの方々の理解とご協力、そしてご活躍に支えられているものです。官民を問わず、多層的な交流が、日ASEAN間の真の相互理解をもたらしていることを喜ばしく存じます。

2 目覚ましい発展を遂げるASEAN

●今日ASEANは、日本にとって欠かすことのできないパートナーです。ASEANは多様性に富んだ地域ですが、互いの多様性を尊重し、全会一致で物事を決めるという寛容の精神で、強い団結心を育んできました。その結果は見事なものです。

●ASEANは現在、GDPで世界経済全体の3.4%を占めるまでに成長を遂げ、世界の成長センターとしての地位を確立しました。2020年代中頃には、ASEAN10か国の経済規模は日本に追いつく勢いです。

3 福田ドクトリンの歴史的意義

●このようなASEANの今日の発展と統合は、偏にASEAN各国の努力によるものです。日本はその発展に強い関心を持ち、積極的に関与して参りました。

ASEANと日本の友好協力関係の基礎には今回プレートにも記載の福田ドクトリンがあり

ました。しかし、今日の良好な関係を築くまでの道程は、決して平たんなものではありませんでした。

●戦後、日本は、外交の三本柱の一つとして「アジアの一員としての立場を堅持する」という基本方針を掲げました。50年代の戦後賠償、60年代の政府開発援助（ODA）を実施してきましたが、それとともに、日本企業の東南アジアにおける活動の勢いは急速に増加して参りました。

●この日本企業の活発な活動は、その勢いが強すぎたがために、各国では、急速な経済の発展が進んだことが逆に脅威とみなされる程になりました。それはかつての大戦における日本の姿を思い起こさせるほどのもので、今度は経済的に日本に席卷されてしまうのではないかという懸念を、東南アジア諸国の皆様に与えてしまうという失敗を犯し、そのことに自身で気が付かなかったのです。

●一時はかなり切迫した状況にもなりました。

丁度その時期に、福田赳夫は日本の総理大臣として日本の ASEAN 外交の新しい礎となる方針を明らかにしたのです。

それが1977年8月、福田赳夫が ASEAN 歴訪の締めくくりとして訪問したフィリピンの、まさにこのフィエスタパビリオンにおいて発表した「福田ドクトリン」だったのであります。これは、日本の東南アジア外交の再出発をする、歴史的に重要な契機となりました。

●東南アジア諸国の皆様は、この「福田ドクトリン」を前向きに受け止めてくださいました。そればかりではなく、このスピーチを今だにしっかりと記憶して下さっています。今日、この日の光景を、故人の福田赳夫もさぞ満足しているだろうと思います。

●さて、昨年、ジャカルタにおいて ASEAN50 周年記念に合わせて、福田ドクトリン 40 周年を記念するセミナーが開催されました。その際にも、私は「福田ドクトリン」について述べさせていただきました。そのセミナーの開催にあたっては、本日御出席いただいているインドネシア日本友好協会会長のギナンジャール閣下に大きな御支援を賜りました。改めて感謝申し上げます。

●「福田ドクトリン」は、戦後の懸案処理型の外交と一線を画す3つの理念を示しました。それは、①日本は軍事大国とはならない、②ASEAN と「心と心の触れ合う」関係を構築する、③日本と ASEAN は対等なパートナーである、というもので、本日除幕したプレートに、そのように記載されております。

4 福田赳夫元総理の考えた対アジア外交とは？

●「福田ドクトリン」の3つの理念は、当時としては画期的なものでした。特に、日本は、心と心のふれあいを実現すべく、「東南アジア青年の船」、「21世紀東アジア青少年大交流計画（J E N E S Y S(ジェネシス))」などを実施してきました。アセアン元日本留学生評議会（A S C O J A）もその一つです。これは、福田赳夫の呼びかけで始まった元日本留学生事業です。A S C O J Aも昨年創立40周年を迎えました。

●このような青少年交流を通じて培われた絆は、日本とASEAN関係にとって大きな財産になっています。

本日のシンポジウムの機会をとらえ、ASCOJAによる、「人的交流の促進に係る協力文書」の署名式が行われると承知しています。今なお積極的に活動頂いている関係者の皆様に敬意を表し、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。

5 日ASEAN関係～未来への展望～

●世界で保護主義が台頭し、不透明感が漂う現下の国際情勢において、ASEANも様々な課題に直面し、ASEANの一体性が試されているように感じます。そのようなときこそASEANが一枚岩となって新たな諸課題に対処することが重要です。日本は、ASEANの一体性と中心性を一貫して支持して参ります。

●昨年11月に公表されたASEAN10か国での対日世論調査では、ASEAN全体で90%以上の人々が日本を「信頼できる」と評価しています。その背景には「福田ドクトリン」の精神が東南アジアに広く浸透した結果、日本とASEANが「心と心が触れ合う信頼関係」を築けたからであると考えます。

●日本は、いささかなりともASEANの発展に貢献できるのであるならば、それは私たちの喜びとするところであります。これからもASEAN共同体の統合深化を力強くサポートして参りたいと思います。

6 結語

●ASEANには勢いがあり、更なる可能性に満ち溢れています。今後も幾多の困難を克服し、域内統合を一層進め、世界において確固たる地歩を築いていくものと確信しています。

●福田ドクトリンの生まれたフィリピンは、人口1億人を有するASEANの主要国で、日本にとって大事な国です。昨年のASEAN設立50周年時には、フィリピンは、ASEAN議長国として、重要な役割を果たされました。

●今から130年前の1888年、日本を訪れたフィリピンの英雄ホセ・リサル博士は「日本とフィリピンとは緊密な関係を持つことになるであろう」と両国の将来を予言しました。

先般、ドゥテルテ大統領は両国の関係を「戦略的パートナーシップの黄金時代を迎えている」と発言されました。両国が更なる深化を遂げることを心から期待しています。

●日・ASEAN の関係を更なる高みへと導くもの、それは紛れもなく「心と心のふれあう」交流です。フィリピンにも ASEAN にも、更に輝かしい未来があります。未来の姿を日本と共に描きながら、活力ある ASEAN、域内を越えて貢献していく ASEAN を目指して行きましょう。

●本日お集まりの皆様に感謝の気持ちを込めて、改めて御礼を申し上げます。

(了)